

Sun Java System Application Server Standard Edition 入門ガイド

バージョン 7 2004Q2

Part No. 817-6874

『入門ガイド』では、Sun Java System Application Server の起動方法、実行中であることの確認方法、およびサンプルアプリケーションの配備方法について説明します。詳細情報の入手先についても説明します。

注 『入門ガイド』では、ユーザーがすでに Sun Java System Application Server をインストールしていることを前提としています。インストールの手順については、『Sun Java System Application Server インストールガイド』を参照してください。

このガイドには次の項目があります。

- [サーバーの起動](#)
- [Application Server が実行中であることの確認](#)
- [サーバーの停止](#)
- [サンプルアプリケーションの配備](#)
- [コマンド行ツールを使用するための Windows 環境の設定](#)
- [参照情報](#)

注 問題が発生した場合は、『Sun Java System Application Server Troubleshooting Guide』を参照してください。

サーバーの起動

Sun Java System Application Server をインストールすると、サーバーインスタンスを管理する管理サーバーと、Application Server のインスタンスの両方が、デフォルトでインストールされます。

Application Server インスタンスは `server1` と呼ばれます。

管理サーバーは、Sun Java System Application Server の特殊なインスタンスで、管理インタフェース (管理コンソールとも呼ばれる) とコマンド行インタフェースの管理機能を提供します。これらのインタフェースの設定、配備、監視の各機能を管理します。

管理サーバーと 1 つ以上のサーバーインスタンスを組み合わせたものをドメインと呼びます。サーバーをインストールすると、その管理サーバーと `server1` インスタンス用に、`domain1` と呼ばれるデフォルトドメインが作成されます。

管理サーバーと Application Server の両方を起動するには、以下の節を参照してください。

- [UNIX でのサーバーの起動](#)
- [Microsoft Windows でのサーバーの起動](#)

UNIX でのサーバーの起動

UNIX 版のサーバーを起動するには、サーバーを管理するコマンド行ユーティリティ `asadmin` を使用します。

次のコマンドで、コマンドパスに `bin` ディレクトリを追加します。

```
% setenv PATH install_dir/bin:$PATH
```

次のコマンドで、サーバーを起動します。

```
% asadmin start-domain domain1
```

ドメインを起動すると、管理サーバーと `server1` サーバーインスタンスの両方が起動します。次のようなメッセージが表示されます。

```
インスタンス domain1:admin-server が起動しました
```

```
インスタンス domain1:server1 が起動しました
```

```
ドメイン domain1 が起動しました
```

Microsoft Windows でのサーバーの起動

Windows 版のサーバーを起動するには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」メニューから「プログラム」を選択します。
2. 「Sun Microsystems」を選択します。
3. 「Sun Java System Application Server 7 2004Q2」を選択します。
4. 「Application Server の起動」をクリックします。

コマンドウィンドウが表示され、次のようなメッセージが表示されます。

インスタンス domain1:admin-server が起動しました

インスタンス domain1:server1 が起動しました

ドメイン domain1 が起動しました

続行するには何かキーを押してください

任意のキーを押して、このウィンドウを閉じます。

サーバーインスタンスが起動すると 2 番目のウィンドウが表示され、このウィンドウには、サーバーインスタンス server1 のイベントログが表示されます。このウィンドウは、サーバーインスタンスの実行中は開いたままになります。

注 Windows ユーザーも asadmin と同様のツールをコマンド行から実行できます。環境変数の設定方法だけが異なります。詳細は、この節の最後の「[コマンド行ツールを使用するための Windows 環境の設定](#)」を参照してください。

Application Server が実行中であることの確認

Sun Java System Application Server を起動したら、実行していることを確認してください。

- 管理サーバーが実行中であることの確認
- サーバーインスタンスが実行中であることの確認

管理サーバーが実行中であることの確認

管理サーバーが実行していることを確認するには、次の URL を使用します。

`http://localhost:4848`

この URL は 2 つの部分で構成されます。

名前「localhost」は、ブラウザが現在実行中のシステムを参照する、特殊なホスト名です。管理サーバーが別のシステムで実行中の場合、この URL ではそのシステムの名前で置き換えます。

数字 4848 は、管理サーバーのデフォルトのポート番号です。インストール時に別の番号を選択した場合、この URL ではその番号で置き換えます。

この URL にアクセスすると、インストール時に設定した管理ユーザーの名前とパスワードを要求されます。ユーザー名とパスワードを入力すると、サーバーインスタンスを管理するための管理インタフェースが表示されます。

図 1 管理インターフェース



サーバーインスタンスが実行中であることの確認

サーバーインスタンスが実行していることを確認するには、次の URL にアクセスします。

`http://localhost:80`

または

`http://localhost:1024`

番号 80 および 1024 は、サーバーインスタンスのデフォルトの HTTP ポート番号です。デフォルトの番号は、インストールの種類、お使いのプラットフォーム、および root としてインストールしたかどうかによって異なります。詳細は、『Sun Java System Application Server インストールガイド』を参照してください。インストール時に別の番号を選択した場合、この URL をその番号で置き換えます。

サーバーインスタンスの URL にアクセスすると、サーバーインスタンスのトップページが表示されます。この画面には、Sun Java System Application Server に関する情報と、役立つ追加の参考資料へのリンクがあります。

図 2 サーバーのトップページ



サーバーが実行中でなく、またそれ以外の点ではシステムが正常に作動している場合は、「server not found」エラーが表示されます。ブラウザによっては、このエラーにより検索エンジンが自動的に起動します。問題が深刻な場合は、『Sun Java System Application Server Troubleshooting Guide』で説明する手順で、サーバーとブラウザの設定を確認する必要があります。

サーバーの停止

Sun Java System Application Server を停止するには、次の手順を使用します。

- [UNIX でのサーバーの停止](#)
- [Microsoft Windows でのサーバーの停止](#)

UNIX でのサーバーの停止

UNIX で Sun Java System Application Server を停止するには、asadmin ユーティリティの stop-domain コマンドを使用します。

```
% asadmin stop-domain
```

Microsoft Windows でのサーバーの停止

Sun Java System Application Server を停止するには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」メニューから「プログラム」を選択します。
2. 「Sun Microsystems」を選択します。
3. 「Sun Java System Application Server 7 2004Q2」を選択します。
4. 「Application Server の停止」をクリックします。

サンプルアプリケーションの配備

サンプルアプリケーションの配備を確認するために、このマニュアルでは Sun Java System Application Server に同梱の Caching Web サンプルアプリケーションを使用します。Caching Web サンプルアプリケーションでは、Sun Java System Application Server 上でサーブレットまたは JSP のキャッシュ機能を利用する方法を示します。

アプリケーションを配備するには、Sun Java System Application Server がアプリケーションのロード、URL のマッピング、および使用するリソースへの接続を行うために必要な情報を、Application Server に対して指定する必要があります。この情報は、パッケージ化されたアプリケーションの一部である配備記述子に含まれています。パッケージ化されたアプリケーションは WAR (Web ARchive ファイル)、JAR (Java ARchive ファイル)、または EAR (Enterprise ARchive ファイル) のどれかの形式になっています。今回のアプリケーションは、samples ディレクトリ内の WAR ファイルに含まれています。

管理インタフェースを使用してアプリケーションを配備するには、次の手順を実行します。

1. 4 ページの「管理サーバーが実行中であることの確認」で説明する、管理インタフェースを開きます。
2. 「アプリケーションサーバーインスタンス」で server1 を開きます。
3. 左側の区画で「アプリケーション」を開きます。
4. 「Web アプリケーション」をクリックします。
5. 「配備 ...」をクリックします。
6. Caching Web サンプルの WAR ファイルへのパスを入力します。

デフォルトのパスは `install_dir/samples/webapps/caching/webapps-caching.war` です。

7. 「了解」をクリックします。

アプリケーションを配備するためのオプションを含む画面が表示されます。デフォルト値を変更する必要はありません。

8. 「了解」をクリックします。
9. サンプルが Sun Java System Application Server に配備されます。

アプリケーションは配備するとデフォルトで有効になります。アプリケーションは、使用する前に有効にする必要があります。

アプリケーションが適切に配備されていることを確認するには、次の URL を使用します。

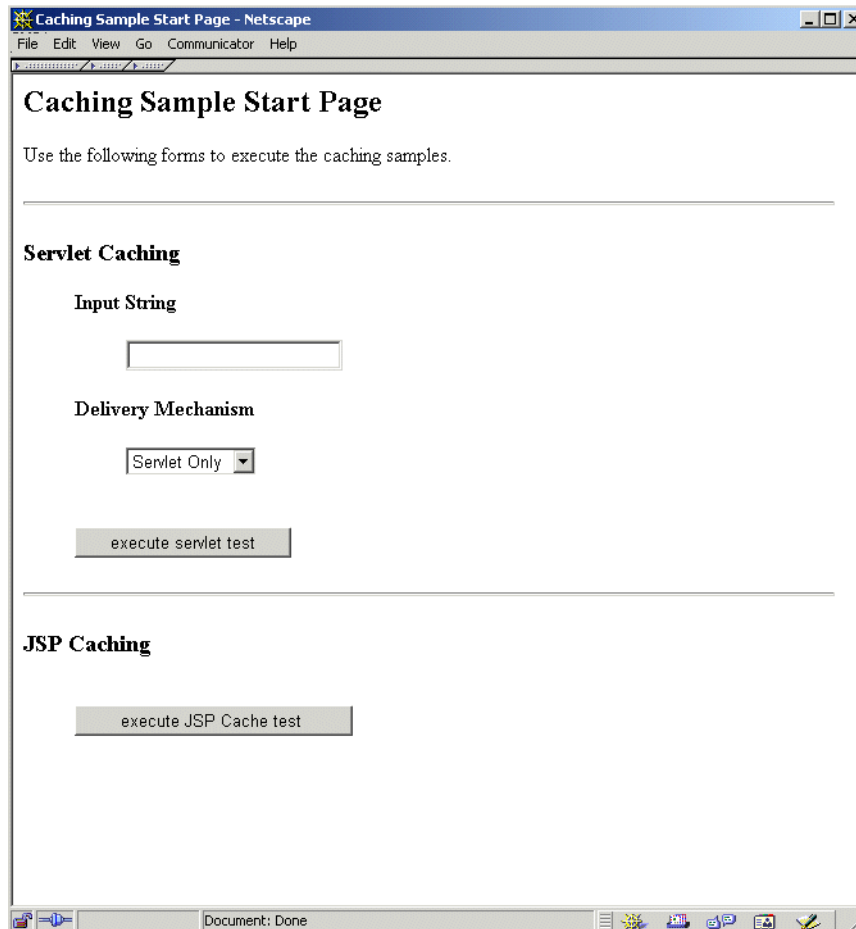
```
http://server_name:server_instance_port/webapps-caching
```

例

```
http://localhost:80/webapps-caching
```

アプリケーションの最初のページが表示されます。

図 3 Caching Web サンプルページ



このページが表示された場合は、アプリケーションが正常に配備されたことを意味します。

また、asadmin コマンド行ユーティリティを使用すると、コマンド行またはシェルスクリプト内で配備できます。これは、複数台のマシンを設定する場合に便利です。コマンドは asadmin deploy です。構文を確認するには、asadmin のオンラインヘルプを参照してください。

利用可能なツール

これまでに説明したツール、管理インタフェースおよび asadmin ユーティリティを含め、Sun Java System Application Server には多くの利用可能なツールがあります。以下の表に、利用可能なツールを示します。

表 1 利用可能なツール

ユーティリティ	定義
管理インタフェース	グラフィカルユーザーインタフェースで Sun Java System Application Server を管理する。詳細は、『Sun Java System Application Server Administration Guide』を参照
appclient	Application Client Container を起動し、アプリケーション JAR ファイル内にパッケージ化されているクライアントアプリケーションを呼び出す。詳細は、『Sun Java System Application Server Developer's Guide』を参照
asadmin	コマンド行で Sun Java System Application Server を管理する。詳細は、『Sun Java System Application Server Administration Guide』を参照
capture-schema	データベースのスキーマとマッピング情報を取得する。詳細は、オンラインヘルプを参照
flexanlg	サーバーに関する統計情報を生成する。詳細は、『Sun Java System Application Server Administration Guide』の「Using Logging」の章を参照
htpasswd	ユーザー認証ファイルを作成する。データベーススキーマおよびマッピング情報を取得する。詳細は、オンラインヘルプを参照
package-appclient	アプリケーションクライアントコンテナのライブラリと JAR ファイルを統合する。詳細は、『Sun Java System Application Server Developer's Guide to Clients』を参照
verifier	DTD によって J2EE 配備記述子を検証する。詳細は、『Sun Java System Application Server Developer's Guide』を参照
wscompile	サービス定義インタフェースを使用し、クライアントスタブまたはサーバー側スケルトンを生成する。つまり、該当のインタフェースに対応する一連の WSDL を生成する。詳細は、『Sun Java System Application Server Developer's Guide to Web Services』を参照
wsdeploy	配備可能な WAR ファイルを生成する。詳細は、『Sun Java System Application Server Developer's Guide to Web Services』を参照

コマンド行ツールを使用するための Windows 環境の設定

コマンド行ユーティリティにアクセスするには、PATH 環境変数に `install_dir¥bin` ディレクトリが必要です。コマンド行ユーティリティにアクセスする前に、次の手順を実行します。

1. エクスプローラウィンドウまたはデスクトップで、「マイコンピュータ」を右クリックします。
2. 「プロパティ」を選択します。
「システムのプロパティ」ダイアログが表示されます。
3. 「詳細」タブをクリックします。
4. 「環境変数」をクリックします。
5. PATH 変数が存在する場合は、次の手順を実行します。
 - a. 「編集」をクリックします。
 - b. 「変数値」に、サーバーの `bin` ディレクトリへのパスを入力します。ほかのエントリとはセミコロンで区切ってください。

`;%install_dir¥bin`

- c. 「OK」をクリックして変更を確定し、ほかの開いているウィンドウを閉じます。

PATH 変数が存在しない場合は、次の手順を実行します。

- a. 「新規」をクリックします。
- b. 「変数名」に、PATH と入力します。
- c. 「変数値」に、サーバーの `bin` ディレクトリへのパスを入力します。

`C:¥install_dir¥bin`

- d. 「OK」をクリックして変更を確定し、ほかの開いているウィンドウを閉じます。

PATH 変数が正しく設定されたことをテストするには、コマンドウィンドウを開き、`asadmin` と入力します。正しく設定されている場合は、`asadmin>` プロンプトが表示されます。

参照情報

Sun Java System Application Server の詳細は、次の各項目を参照してください。

表 2 参照情報

リソース	内容
サーバーのトップページ	Sun Java System および Sun Java System Application Server のオンラインリソースへのリンク
『リリースノート』	新機能、プラットフォームのサポート、既知の問題に関する情報
『Administration Guide』	管理インタフェースおよび asadmin ユーティリティを使用した Sun Java System Application Server の管理に関する情報
サンプル	Sun Java System に同梱されているサンプルに関する情報。 <i>install_dir/samples/index.html</i> にある
マニュアル	Sun Java System Application Server に関する完全なマニュアルのセット。 http://docs.sun.com にある
asadmin オンラインヘルプ	特定の asadmin コマンドに関する詳細情報
ユーティリティのマニュアルページ	コマンド行ユーティリティに関する詳細情報
Java BluePrint	サーバー操作を説明する例を集めた包括的なセット。例は、アプリケーションのテンプレートとして使用可能

Copyright © 2004 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書内の製品に組み込まれている技術に関する知的所有権は、米国 Sun Microsystems, Inc. に帰属します。これらの中には、1 個以上の米国特許 (一覧は <http://www.sun.com/patents>)、外国特許または特許出願により保護されているものもあります。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

Use is subject to license terms.

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Solaris は、米国ならびにその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。